

製品名: NMDA ϵ 1/2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14758**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	GRIN2A/GRIN2B
別名	GRIN2A; NMDAR2A; Glutamate [NMDA] receptor subunit epsilon-1; N-methyl D-aspartate receptor subtype 2A; NMDAR2A; NR2A; hNR2A; GRIN2B; NMDAR2B; Glutamate [NMDA] receptor subunit epsilon-2; N-methyl D-aspartate receptor subtype 2B; NMDAR2B; N
遺伝子 ID	2903/2904
SwissProt ID	Q12879/Q13224
免疫原	抗血清はヒト NMDAR2A/B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1216-1265

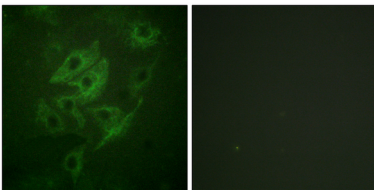
背景

この遺伝子は、グルタミン酸依存性イオンチャンネルタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、N-メチル-D-アスパラギン酸 (NMDA) 受容体サブユニットです。NMDA 受容体はリガンド依存性かつ電圧依存性であり、長期増強に関与しています。長期増強とは、活動依存的にシナプス伝達効率が上昇する現象で、特定の種類の記憶や学習の基盤と考えられています。これらの受容体はカルシウムイオンを透過性があり、活性化されるとシナプス後細胞へのカルシウム流入が起こり、複数のシグナル伝達カスケードが活性化されます。この遺伝子の破壊は、局所性てんかんおよび言語障害（精神遅滞の有無は問いません）と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014年5月],function:グルタミン酸依存性イオンチャンネルの NMDA 受容体サブタイプは、高いカルシウム透過性と電圧依存的なマグネシウム感受性を有します。活性化には、両方のタイプのサブユニットへのアゴニストの結合が必要である。類似性: グルタミン酸依存性イオンチャンネル (TC 1.A.10) ファミリーに属する。サブユニット: ゼータサブユニット (GRIN1)、イプシロンサブユニット (GRIN2A、GRIN2B、GRIN2C、または GRIN2D)、および第3のサブユニット (GRIN3A または GRIN3B) からなるヘテロ多量体チャンネルを形成する。GRIN1 および GRIN3B との複合体として存在する。GRIN1、GRIN3A、および PPP2CB との複合体として存在する。AIP1、INADL、および DLG4 の PDZ ドメインと相互作用する。HIP1 と相互作用する。、

研究分野

カルシウム、神経活性リガンド-受容体相互作用、長期増強、アルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、全身性エリテマトーデス、

画像データ



NMDAR2A/B 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。